

## 第6学年 社会科学習指導案

### 1 単元名 「町人の文化と新しい学問」（東京書籍6年上）

### 2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の内容（1）カ「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること」を受けて設定したものである。江戸時代に入り、社会が安定するにつれて、近松門左衛門や歌川広重などの活躍により町人文化が栄えたこと、杉田玄白や伊能忠敬、本居宣長などの活躍により、蘭学や国学といった新しい学問が起こり、後の時代に影響を与えたことが分かるようにすることをねらう。

文化や学問の内容を取り扱う学習においては、教科書等を中心に児童に人物と業績を調べさせ、まとめさせることで、目標達成とする学習が一般的である。しかし、学習状況調査の課題から、学習問題を2段階で設定する単元を設定する。まず、人物の業績や努力、当時やその後の発展への影響を調べまとめさせる。次に、「江戸時代を代表する文化や学問は何か」という論題で、根拠をもって児童自身に考えをもたせ、討論をさせる。このように、単元で学んだ知識を活用させる場を設定し、知識を定着させ、社会科における思考力・判断力・表現力を育成することをねらう。

- 本学級の児童は、歴史学習に対して意欲的に取り組んでいる。1学期は、教科書や資料集の他、電子黒板を利用した「NHK for School」の映像を交えながら、当時の人々の生活の様子や時代ごとの特徴の変化を学習してきた。資料から読み取ったことを友達同士で話し合い、発表する活動にも慣れてきている。また、国語科の学習や学級会を通して、自分の意見を伝え合う機会も設けてきた。

しかし、事前アンケートの「授業中に話し合ったり、自分の意見を発表したりすることが好き」という質問に対して、「とても好き（6.1%）、好き（39.4%）、苦手（42.4%）、とても苦手（12.1%）」の結果が出た。この結果から、自分の考えを表現する活動に慣れてきたものの、まだ苦手意識をもつ児童が多いことがうかがえる。

昨年12月の学習状況調査の調査問題を基に、本学級で事前に実態調査（平成27年6月実施）を行った。その結果について解答内容を分析し、誤答傾向等を考察したところ、本学級の児童は、歴史上の人物の業績や事象は理解していても、人物の業績や事象間の関連が理解できておらず、「なぜそうなるのか」という意味理解までは達していない部分があると考えられる。また、複数の資料を関連付ける力（思考力・判断力）と考えたことを分かりやすく論述する力（表現力）の育成が不十分であると考えられる。これらのことから、以下の視点で授業改善の手立てを取り入れることとした。

- ・資料の読み取りの指導の中で、「分かること」から「考えられること」を問いかけ、調べたことを基に「なぜそんなことをしたのか」などの社会的事象の意味を理解する思考へと段階的に導く。
- ・学んだ複数の情報を関連付けて説明させる活動を取り入れる。（学習問題Ⅱの設定）

- 指導に当たっては、まず、歌舞伎の映像や浮世絵、伊能忠敬の日本地図を提示し、室町時代の墨絵や能楽、漢文学や朱子学と比較させる。次に、日本の文化や学問がどのように変化したのかを予想させ、江戸時代の文化や学問に興味をもたせる。これにより、学習問題Ⅰ「江戸時代には、どのような文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろうか」を設定し、以降の学習の見通しをもたせる。

調べる段階では、教科書、資料集の他、教師が用意した資料、「NHK for School」の映像などを使って、近松門左衛門の歌舞伎や人形浄瑠璃、歌川広重の浮世絵、伊能忠敬の日本地図と杉田玄白の解体新書、本居宣長の国学と文化や学問の分野別に調べさせる。その際、1つの資料から「分

「わかること」と「考えられること」を区別させた読み取りの指導や「どんな意味があるのか」「なぜそんなことをしたのか」を考えさせる指導、複数の資料を使つての指導へとスモールステップで指導を行う。このようにして、学習問題Ⅰで調べた人物を整理し、記述したり、話し合ったりしながら、自分の考えを論述する力（表現力）を育てたい。

最後に、学習のまとめとして学習問題Ⅱ「江戸時代を代表する文化や学問を考えよう」を設定し、自分が推薦する分野を選び、その理由を考えさせる。これにより、人物の業績や江戸時代の文化や学問について学んだ知識を活用させることで、知識の定着を図るとともに、それぞれの業績を比較させ、学習問題Ⅱについて根拠をもって自分の考えをもつ力（思考力）を育てたい。

### 3 単元の目標

江戸時代に生まれた文化や学問に関心を持ち、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について資料を活用して調べ、江戸時代を代表する文化や学問について考える活動を通して、社会が安定するにつれて、町人文化や、蘭学や国学といった新しい学問が生まれたこと、それらに関わる人物の働きが理解できるようにする。

### 4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の文化や学問とそれらに関わる人物に関心を持ち、それを意欲的に調べている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらに関わる人物の努力や業績について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図や年表、その他の資料を活用して、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらに関わる人物の努力や業績について必要な情報を集め、読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらに関わる人物の努力や業績を理解している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の文化や学問とそれらに関わる人物について、人物の業績や働き、特徴を比較し、江戸時代を代表する分野を考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の文化や学問に関わる人物の業績や働き、特徴を比較して、お勧めする分野を考え適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことをワークシートにまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会が安定するにつれて、町人文化が栄え、新しい学問が起こったこと、こうした文化や学問が当時の人々や後世に影響を与えたことを理解している。</li> </ul>

## 5 単元計画（全6時間 本時5/6）

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)	評価(・)主な評価の観点【】	時配
学習問題を つかむ	○室町時代の文化や学問を振り返り、その特徴を短文でまとめる。	○江戸時代の文化や学問と比較させるために、室町時代は、今につながる和風文化が武士や貴族を中心に栄え、中国の学問が学ばれていたことを確認する。		1
	○室町時代に栄えた文化や学問と比べ、江戸時代の文化や学問がどう変化したのかを予想する。	○歌舞伎の映像や浮世絵、伊能忠敬の日本地図、解体新書を提示し、室町時代と比較させることで、江戸時代の文化や学問に対する興味をもたせる。		
	江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろうか。（学習問題Ⅰ）			
	○調べる視点を決め、学習の見通しをもつ。 (調べる視点) ・「誰が」 ・「業績（したこと）」 ・「特徴」	○「誰が」「何をしたのか」「どんな特徴があるか」等、児童の発言を取り上げながら、調べる視点を決める。また、教科書で学習する人物を確認しながら、学習計画を立てていく。	・歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらに関わる人物の努力や業績について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。【思】	
調べ	○江戸時代の文化に関わる人物として近松門左衛門と歌川広重について調べる。	○調べる視点「業績（したこと）」、「特徴」を基に、教科書と資料集から調べさせる。また、必要に応じて、用語の解説をしたり、資料を取り上げて、「分かること」を読み取る指導を加えたりする。	・近松門左衛門の歌舞伎や人形浄瑠璃、歌川広重の浮世絵について、資料などを活用して、必要な情報を集め、読み取っている。【技】	1
	○学習問題Ⅰについて、江戸時代に生まれた文化面から短文でまとめる。	○2人の業績や文化の特徴を基に、短文でまとめさせることで、江戸時代の文化は町人が主体となったことをつかませる。	・江戸時代になり、文化の担い手が町人に変化したことを理解している。【知】	
	○江戸時代に生まれた学問である蘭学として伊能忠敬と杉田玄白について調べる。	○調べる視点「業績（したこと）」、「特徴」を基に、教科書と資料集から調べさせる。また、必要に応じて、用語の解説をしたり、資料を取り上げて、「分かること」を読み取る指導を加えたりする。	・伊能忠敬の日本地図、杉田玄白の解体新書について、資料などを活用して、必要な情報を集め、読み取っている。【技】	1
○学習問題Ⅰについて、江戸時代に生まれた学問である蘭学という面から短文でまとめる。	○2人の業績と学問との関わりを基に、短文でまとめさせることで、江戸時代に入り、蘭学が国内に広がり、日本の社会が進展したことをつかませる。	・江戸時代になり、ヨーロッパの新しい学問が広まったことを理解している。【知】		

	<p>○江戸時代に生まれた学問である国学として本居宣長と当時の社会情勢について調べる。</p> <p>○学習問題Ⅰについて、江戸時代に生まれた学問である国学という面から短文でまとめる。</p>	<p>○調べる視点「業績（したこと）」、「特徴」を基に、教科書と資料集から調べさせる。また、必要に応じて、用語の解説をしたり、資料を取り上げて「分かること」を読み取る指導を加えたりする。</p> <p>○当時の社会情勢について調べさせるために、大塩平八郎の乱を取り上げ、学問が生まれた背景にも気付かせる。</p> <p>○短文でまとめさせることで、国学が広まり、社会や政治の在り方に批判的な動きに影響を与えたことをつかませる。</p>	<p>・江戸時代の文化や学問に興味・関心をもち、それを意欲的に調べている。【関】</p> <p>・調べたことをワークシートにまとめている。【技】</p>	<p>1</p>
<p>考 え ・ ま と め る</p>	<p>○江戸時代の文化や学問と、それらに関する人物を振り返り、学習問題Ⅰについて、江戸時代の文化や学問の特徴をまとめる。</p> <p>○「文化・蘭学・国学」について、どの分野がすごいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5人のうち一番すごいのは誰か。</li> <li>・3つの分野「文化、蘭学、国学」のうち江戸時代を代表するものはどれか。</li> </ul> <p>○学習問題Ⅱを設定する。</p>	<p>○教室の掲示物を提示しながら、人物と業績、特徴等を確認しながら、板書に表にしていくことで、これまでの学習をまとめるキーワードを明らかにする。その際に、「文化・蘭学・国学」の分野に大別されることを確認する。</p> <p>○児童が考えやすいように、まず5人の中からお勧めしたい人物を選ばせ、ワークシートに論述させる。</p> <p>○選んだ人物が分かれている状況から、選択肢を「文化・蘭学・国学」の3つに絞り、教師が揺さぶりを掛けながら一番について考えさせ、ワークシートに論述させる。</p> <p>○児童の発表や発言から、「影響の範囲」や「効果」、「努力」などの様々な視点で比較できることに気付かせる。</p> <p>○視点に沿って、3つを比較する大切さに気付かせ、児童の言葉を基に学習問題Ⅱを設定する。</p>	<p>・江戸時代の文化や学問の特徴を、学習問題に沿って総合的に考え適切に表現している。【思】</p> <p>・江戸時代に生まれた文化や学問を比較し、自分が一番すごいと考える分野について理由を明確にして表現している。【思】</p>	<p>1 本時 (5/6)</p>
<p><b>江戸時代を代表する文化や学問を考えよう。(学習問題Ⅱ)</b></p>				
	<p>○「江戸時代の文化や学問の中で一番お勧めする分野はどれか」という論題で討論会を行い、自分の考えを深める。</p> <p>○自分の考えを論述する。</p>	<p>○自分のお勧めする分野とそう考えた根拠を発表させる。ワークシートは視点別に採点式で評価できるものを用いることで、比較しやすいようにする。</p> <p>○人物と選んだ根拠を論述するよう伝える。根拠として、板書の視点を参考にさせる。</p>	<p>・江戸時代の文化や学問に興味・関心をもち、人物の業績や働き、特徴を比較し、江戸時代を代表する分野を考えようとしている。【関】</p> <p>・討論の視点を根拠として3つの分野を比較しながら、自分の考えを論述している。【思】</p>	<p>1</p>

6 本時の目標

学習問題Ⅰのまとめを行い、「文化・蘭学・国学」の3つの分野を比較し、自分が一番すごいと考える分野について理由を明確にして表現することができるようにする。（社会的な思考・判断・表現）

7 展開(全6時間 本時5/6)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と主な評価【】
1 江戸時代の文化や学問と、それらに関する人物を振り返る。 〈学級全体〉	○本時の学習にスムーズに導入できるように、前時までに学習した人物を確認し、本時のめあてにつなげる。
めあて 江戸時代に生まれた文化や学問を振り返ろう。	
2 学習問題Ⅰについて、江戸時代の文化や学問の特徴をまとめる。 〈個人・学級全体〉	○学習問題Ⅰをまとめることを意識させるために、これまでに学習した5人の人物と、その業績と特徴を問いかけ、児童の発言を基に黒板に表でまとめ、キーワードを丸で囲んでいく。 ○学級全体で数人分を発表させ、まとめる際に「文化・蘭学・国学」の3分野に大別されることを確認する。 ○要点を押さえて自分の考えを表現する力を育成するために、既習の「文化・蘭学・国学」について、板書やワークシート、掲示物を参考にさせながら、板書に示したキーワードを使って特徴をまとめさせる。
3 「文化・蘭学・国学」について、どの分野がすごいか考える。 ・自分のお勧めの人物を1人決める。 〈個人・学級全体〉  ・お勧めの分野を1つ決める。 〈個人・学級全体〉	○児童が興味をもって学習に取り組めるよう、初めは深く考えさせず、気軽に指名して答えさせる。誰がお勧めか举手させ、その人を選んだ理由をワークシートに論述させる。 ○選んだ理由を発表させる際、理由に対して教師が揺さぶりをかけることで、児童から多様な考えを引き出す。 ○選択肢を絞って考えることの有効性に気付かせるために、意図的に異なる意見の児童に発表させ、選択が多岐に渡っていることを確認する。その後、「文化、蘭学、国学」の3つで考えさせ、ワークシートに論述させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     社会的な問題《答えさせるための問い》 江戸時代には、町人文化や新しい学問がおこり、それらに関する人物は、どれも素晴らしい業績を残している。                 </div> 児童の反応例 ・文化…浮世絵はヨーロッパの人にまで影響を与えているから。 ・蘭学…伊能忠敬は実際に17年も日本を歩いて回り、正確な地図を完成させているから。 ・国学…倒幕につながり、江戸時代を終わらせた影響力は一番すごいと思うから。	【評価】 ○自分の考えに固執せず、多面的に考えられるように、児童の発言から、「影響の範囲」や「効果」、「努力」等様々な視点で比較できることに気付かせ、板書する。 ○選択肢を3つの視点で比較しながら、自分の論述した理由をより深めさせるために、次時は出てきた視点を使って考えてみることを伝える。 ○児童が主体的に取り組めるように、次時にすることを確認しながら、児童の言葉を用いて学習問題Ⅱを設定する。
4 学習問題Ⅱを設定する。	
論題 江戸時代の代表する文化や学問を考えよう。《学習問題Ⅱ》	
5 本時の振り返りと次時の見通しをもつ。 〈学級全体〉	○次時の活動に見通しがもてるように、論題についての討論会を行い、考えを深めることを伝える。

8 本時の評価

評価規準	学習問題Ⅰのまとめを行い、「文化・蘭学・国学」の3つの分野を比較し、自分が一番すごいと考える分野について理由を明確にして表現している。 【社会的な思考・判断・表現】		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	学習問題Ⅰのまとめや調べたことを基に、自分が一番すごいと考える分野の理由を、「文化・蘭学・国学」の3つの分野を比較して記述している。	学習問題Ⅰのまとめや調べたことを基に、自分が一番すごいと考える分野の理由を記述している。	(B)に達していない記述
→(B), (C)と判断した児童への支援		→AはBと比べて～や、○○が一番～など、文型を与え比較して書くよう伝える。	→板書に目を向けさせ、すごいと思う分野を決めさせ、そう思う理由を話しながら考えさせる。
評価方法	ワークシートの記述		

板書計画

めあて：江戸時代に生まれた文化や学問を振り返ろう。

分野	誰が	業績（したこと）	特徴
文化	近松門左衛門	歌舞伎, 人形浄瑠璃	町人が主役で楽しめる文化
	歌川広重	浮世絵	
蘭学	伊能忠敬	正確な日本地図	ヨーロッパの新しい知識を学ぶ学問
	杉田玄白	正確な人体内部図	
国学	本居宣長	古事記伝	日本人の考え方を学ぶ学問

理由を比べる視点

- ・影響の広さ（その後に与えた影響）
- ・どんな役に立ったか（誰に影響を与えたか）
- ・どんな努力をしたか

新しい学習問題

江戸時代を代表する文化や学問を考えよう。